

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社劇団東京芸術座
公演団体名	劇団東京芸術座

内容
<p><シーン A> 「パンプキン体操」(出演者/3名～5名) 児童・生徒の皆さんが三々五々広場に集まってきます、①ラジオ体操が始まる前の友だち同士の会話を考えます。②6:30分パンプキンオリジナルラジオ体操をみんなで踊ります。③体操後、ハンコを押してもらうために並び、解散するまでの会話を考えます。</p> <p><シーン B> 「地下鉄田辺駅前、どちらにお出かけ？」(出演者/3名～5名) ①地下鉄の改札には顔見知りの駅員さんが立っています。児童・生徒のみなさんは、それぞれお出かけする設定で改札前に待ち合わせしています。遅れてくる子がいたり、これからの予定で盛り上がったり、状況設定を考えて楽しい会話を創作します。そして改札を通過してお出掛けします。</p> <p><シーン C> 「ヒロカと歌って踊ってタクミを捜索！」(出演者/3名～5名) 主人公ヒロカが「バケツのおひさんつかまえた」(アニメじゃりん子チエ ED テーマ曲)を歌いながら踊り始めます(オリジナルダンス)。フレーズごとに児童生徒の皆さんが歌と踊りに参加していきます(フラッシュモブ)。</p> <p><出演者以外> ご要望があれば出演しない児童生徒との皆さんと、ワークショップを実施します</p>

タイムスケジュール(標準)
* 下記の時間設定は一例です 13:00 学校到着 → ご挨拶(校長先生・担当の先生等) → 打ち合わせ(シーンごとの会場割) 13:30 全員集合 挨拶→各シーンに分かれてワークショップ開始 14:50 全員集合 各シーンごとの成果発表 15:10 ワorkshop終了 お別れの挨拶 → 放校

派遣者数
6名

学校における事前指導

- 1) 上演台本、本編収録のDVD、本事業の概略を記した「手引き」を郵送します。
- 2) 各シーン出演予定者の名簿作成
 - * 出演者以外の全体ワークショップを希望される場合は別途打ち合わせ
- 3) 各シーン別の会場設定 シーンの数に併せた教室が必要となります

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社劇団東京芸術座
公演団体名	劇団東京芸術座

演目
<p>「パンプキン！-模擬原爆の夏-」（講談社/青い鳥文庫所収）</p> <p><スタッフ></p> <p>原作/令丈ヒロ子 脚色・演出/北原章彦 美術/幡野寛 照明/関 定己 音楽/永橋京子 音響効果/馬上真勝 振付/坂井麻也子 放言指導/前田剛志</p> <p><登場人物></p> <p>仲井ヒロカ・木南たくみ（小5）/母/父/おじいちゃん/駅員</p> <p><過去の文化庁事業></p> <p>H21年度／「本物の舞台芸術体験事業「Challeng・ed-遠い水の記憶-」</p> <p>H23～25年度／「次代を担う子供の文化芸術体験事業」「赤ひげ」</p> <p>H26～29年度／「文化芸術による子供の育成事業」「夏の庭-The Friends-」</p> <p>R1～R3年度／「文化芸術による子供育成総合事業」「Challeng・ed-遠い水の記憶-」</p> <p>R2年度第3次補正予算事業/「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」 プログラム参加型採択「未来」</p> <p>R3年度補正予算事業「子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」「未来」</p>

派遣者数
派遣人数 12名 内訳 /キャスト6名 スタッフ6名

タイムスケジュール（標準）					
到着時間	設営作業	リハーサル	休憩・メイク	本公演	撤収作業
7:50	8～11:00	11～12:00	12～13:30	13:30～14:40	～16:30 退校
午前中の開演の場合は前日に設営作業を終えて、本公演前に児童生徒の皆さんとのリハーサルを行います。					

実施校への協力依頼人員
先生方の積極的なワークショップ参加から本公演出演をお願いします。

演目解説

<児童・生徒の皆さんに広く親しまれている青い鳥文庫を舞台化>

令丈ヒロ子さんの代表作『若おかみは小学生!』シリーズは累計 300 万部のベストセラーとなり、漫画、TV・劇場版アニメなど多くの子どもたちに親しまれています。「パンプキン! -模擬原爆の夏-」は 2011 年に刊行後、2019 年には青い鳥文庫版でも出版され、広く長く児童・生徒に親しまれている作品です。多くの方が舞台に興味を持っていただけると作品です。観劇前の読了、もしくは観劇後の読了など舞台観劇と読書体験が連動した企画としても考えていただけます。

「パンプキン-模擬原爆の夏-」

-あらすじ-

あたしの苦手なところ、たくみがやって来た。いつもノートパソコンとにらめっこして、あたしのことを小ばかにするイヤミな男の子だ。駅に迎えに行ったのに。なんだっけ？

そう、モギゲンバクの慰霊碑を勝手に見に行ってた。

え？モギゲンバクって原子爆弾原爆を落とすための練習用の爆弾なの？
え？全然知らなかったよ。モギゲンバクでこの町の人が死んだってこと？
戦争なんて遠くの世界で起きた昔のことだと思っていた。
模擬原爆で多くの方が犠牲になったことに憤る、ヒロカ。だけど調べて行くうちに、原爆の研究は日本でも行われていたこと、原爆の被害者は日本人だけではなくたこと、日本の戦争加害など、多くの事実と直面し、どう考えたらいいのかわからなくなってしまう。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

原作の同名小説は講談社/青い鳥文庫として出版されています。また作者の令丈ヒロ子さんの代表作『若おかみは小学生!』を読んだことのある児童・生徒の皆さんもいらっしゃるかもしれません。事前に小説を読んで理解を深めて演劇公演を楽しんでいただきたいです。

児童生徒とのふれあい

ワークショップ派遣員、参加する児童・生徒の皆さん全員が名札を付けて、親しみを込めた名前呼び合い、コミュニケーションを深めます。

ワークショップから本公演のステージ参加までは、自発的な発想からアクションを促し、舞台演劇作品を創造する一員として、達成感を感じることができるよう取り組みを目指します。